



## 独立行政法人国際協力機構沖縄センター(JICA沖縄)

☎ 098-876-6000 (代表)    ✉ oictp@jica.go.jp

📍 〒901-2552 沖縄県浦添市前田1143-1

【業務内容】 開発途上国の課題解決に取り組み、信頼で世界をつなぎます

【担当部署】 JICA沖縄 市民参加協力課

### 学校等への可能な協力

- ▶ 施設の見学      ▶ 講師派遣
- ▶ 教員向けの国内・海外研修

皆さん、ぜひJICA沖縄に遊びに来てください



### 代表的な事業内容

JICAは開発途上国への技術、資金協力や、日本の団体などによる国際協力活動の支援などを行っています。中でもJICA沖縄は国内で唯一、法的に地元沖縄の振興に貢献する役割があります。

主な取り組みの一つに、開発途上国から研修員を数週間から数カ月受け入れて研修を行う事業があります。2020年までに受け入れた研修員は、164カ国1万3000人以上になりました。沖縄の島しょ・亜熱帯の特徴を活かした水資源や廃棄物管理、自然を活

### 連携して開発途上国を支援

かした観光、農水産品の品質向上のほか、感染症対策、障がい者の社会参加、離島・へき地の教育など各国のニーズに応じた幅広い研修を、地元の団体と連携して実施しています。

開発途上国のSDGs達成のために、地域の市民団体や自治体、大学、企業などが経験や技術を活かして貢献する活動も支援しています。また、これらの活動を県内の国際理解教育にも役立てるため、研修員や青年海外協力隊の経験者を学校に派遣する国際協力出前講座のほか、JICA沖縄での訪

問学習や交流会、開発教育・国際理解教育の実践のための教員研修なども開催しています。さらに、沖縄発SDGsの取り組みをみんなで共有するおきなわ国際協力・交流フェスティバルも毎年開催しています。

JICA沖縄には図書資料室や展示スペースがあり、学校、市民の皆様にご利用いただいています。また、各国から来日する研修員が利用するOIC食堂は、食の国際理解の場として一般の方もご利用いただける地域に開かれたセンターです。

### 強みや工夫

#### 多くの情報、経験豊富な人材も

JICAは海外90カ国以上に拠点があります。これらの国々で日々、国際協力とSDGsの推進のために情報を集め、それぞれの国が解決すべき課題を検討し、現地の方々とともに協力活動を行っています。たくさんの情報量と経験、ノウハウを持つ豊富な人材が、JICAが持つ大きな強みです。

#### 課題

学校の先生方はとてもお忙しいと思いますが、ぜひ「開発教育指導者養成講座」や「教師海外研修」に参加していただきたいです。アクティブラーニングの体験を通じてSDGs推進の授業展開に役立つ学びの提供、実践事例を共有しています。

#### 未来像

沖縄21世紀ビジョンに描かれた「世界に開かれた交流と共生の島」「希望と活力にあふれる豊かな島」「多様な能力を発揮し未来を拓く島」を実現し、沖縄と開発途上国が助け合って栄えていくお手伝いをしたいと考えています。



サンゴの村宣言  
Onna Village in Okinawa

## 恩納村

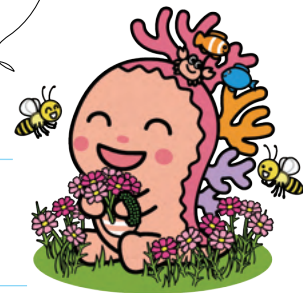
☎098-966-1201   ✉kikaku@vill.onna.lg.jp  
📍〒904-0492 沖縄県国頭郡恩納村恩納2451  
【業務内容】 地方公共団体   【担当部署】 企画課

### 学校等への可能な協力

- ▶ 施設や工場の見学   ▶ 講師派遣
- ▶ 生徒の取り組み・発表への助言など

一人ひとりの思いや  
行動を周りの人へ  
つなげましょう!

担当者   サンゴの妖精  
Sunna(さんな)ちゃん  
恩納村の海守り隊



### 代表的な事業内容

#### 自然、暮らしと観光を共存

恩納村は、サンゴ礁が広がる青い海と恩納岳などの山林に囲まれ、自然に恵まれた地域です。その自然資源を活かして国内有数の観光リゾート地として成長してきました。近年はオニヒトデの大量発生、赤土の流出、サンゴの白化現象などの自然の問題と、観光客が増え、自然環境や住民の生活に負の影響を与えるオーバーツーリズムなどの課題がありました。そこで恩納村は、世界一サンゴにやさしい村を目指す「サンゴの村」を2018年に宣言しました。サンゴを

キーワードに、自然環境にやさしい暮らしと観光業が共存する持続可能な村づくりを目指しています。さらに、環境だけではなく暮らしや経済も一緒に取り組むためにSDGsを取り入れ、2019年に「SDGs未来都市」として国に選定され、さまざまな取り組みを進めています。「環境」では、日本初の「Green Fins」を導入しました。国連環境計画（UNEP）が進める環境にやさしいダイビングやシュノーケリングのガイドラインで、ダイバーの自然環境に対する意

識を高め、持続可能な観光を推進します。「経済」では、「恩納村版ローカル認証」の導入を進めています。村の特産品やサービスなどのうち、農業を使っていない、赤土流出防止対策をしているといった基準を満たした商品を認定します。「社会」では、セミナーなどでの普及啓発や、中学生と企業が連携して特産品を使った商品開発に取り組んでいます。



#### 学校や企業と連携

「サンゴの村宣言」をしたことで村外・県外での認知度が上がり、サンゴ保全の取り組みへの協力者が増えています。恩納村と企業、学校、団体などが協力し合う取り組みも始まっています。小中学校では大学や沖縄科学技術大学院大学（OIST）、ダイビングショップなどと一緒に、総合的な学習の時間にサンゴに関する授業を行っています。教科書では教えてもらえないことを学べる、特別な体験です。

#### 課題

子どもたちへの取り組みは進んでいますが、大人へどう伝えれば自分事化してもらえるかが課題です。授業で学んだことを家庭や地域で伝えることで広がっていくと期待しています。

#### 未来像

自然豊かな村で、村民がサンゴや自然環境にやさしい生活を送ることができ、おもてなしの心で観光業を支えるような、活力あふれる持続可能な村づくりを目指しています。







## 特定非営利活動法人 1万人井戸端会議

☎098-917-3448   ✉10000idobata@gmail.com

📍〒902-0071 沖縄県那覇市繁多川4-1-38

【業務内容】 地域づくり   【担当部署】 那覇市繁多川公民館運営チーム

おもしろいと思っ  
たことを  
一緒にやろう!

担当者

南信乃介さん  
1万人井戸端会議代表  
繁多川公民館館長



### 学校等への可能な協力

- ▶ 施設や工場の見学   ▶ 講師派遣   ▶ 資料や教材の貸し出し
- ▶ 生徒の取り組み・発表への助言など
- ▶ 地域資源を活かした授業づくり
- ▶ キャリア教育と連動した学習機会など

### 代表的な事業内容

公民館や学童の運営を通して、子どもからお年寄りまでが歩いて行ける範囲での持続可能な地域づくりを進めています。

得意なこと、好きなことを教え合いながら、地域の残したいもの、守りたいものについて話したり、行ってみたり、食べてみたりすることで、まちの魅力や課題が見えてきます。そうして掘り起こされたのが、沖縄に昔あった大豆を復活させて豆腐を作る「あたいぐわープロジェクト」です。あたいぐわーとはウチナーグチで

### 近所の居場所で学び挑戦

家庭菜園のこと。大豆を育てることで、畑でおじいちゃんやおばあちゃんとの交流が深まります。多くの豆腐に使われている輸入大豆は、輸送にお金がかかり、二酸化炭素も多く出してしまう。自分たちで大豆から栽培すると、おいしい上に環境にもやさしい豆腐になります。地域の人たちと種まきから行う豆腐作りは、近くの3小学校でも10年以上続いています。大豆を育てた畑で採れた野菜を使って、公民館や学童と一緒にごはんも作ります。さまざまな

家庭環境にある子どもたちが安心して過ごせる場所でありたいからです。このような公民館は海外でも求められており、私たちが関わって2021年、エジプトにも開館しました。期待されているのは、宗教や身分、性別などに関わらず、学びたい・知りたい・やってみたいことに挑戦できる場所です。日本、海外でも格差や不平等、住みにくさが少なくなればと思います。



強みや  
工夫

### 対等に支え合い

住んでいる人と一緒に学び合い、認め合うことで、支える側と支えられる側を作らないことが強みです。まだ十分ではありませんが、対等な立場で出会い、気が付けば支え合いの輪の中に入っているようなきっかけをたくさん作り、緊急の困りごとにも誰一人取り残さないで寄り添える工夫をしています。



課題

子どもが生まれ、小学校に入学するまでを支え合う仕組みが弱い。



未来像

地域の課題はなくなりません。むしろ次々に出てくる課題を解決し続ける力を残すことが、持続可能な地域社会をつくり、地球で共に暮らしていく私たちの在り方ではないでしょうか。ワクワクするようなチャレンジにあふれる地域社会を創っていきたいです。